



*Proposal for Establishing
an Esophageal Disease Center*

広島市民病院 食道疾患センター

高度で専門的な診療の「集約化」

食道疾患、特に食道がん診療は、その特性から診断、治療、治療後の管理において高度で専門的な知識と技術、さらに多くの経験が求められるので、まさに病院の総合力が試される診療といえます。また、良性疾患においてもその傾向は認められます。

広島市民病院は豊富な食道疾患の治療経験(年間60-70件の外科手術・年間60-70件の内視鏡手術)を有し、高い専門性と質の高い医療技術を提供し、多職種での連携体制も備えています。

このたび、治療に関わる診療科および部門、センターの協力体制をより強固にして、総合的かつ一体的とするために、院内に「食道疾患センター」を設立しました。

しらかわ やすひろ
白川 靖博

広島市立広島市民病院 副院長(兼)外科 部長(兼)がんゲノム医療センター(遺伝子診療科)センター長。これまで、食道がんを中心に診療を行ってきた実績をもとに、この度食道疾患センター長に就任。

写真の人物
— Profile —

01. 食道がんとは

食道は口から飲み込んだ食べ物や飲み物を胃に運ぶ通り道の役割を担う臓器で、食道がんは食道にできる悪性の腫瘍です。

食道がんの主な原因は飲酒、喫煙と考えられています。

症状としては、食べ物のつかえ感、体重減少、胸の痛みや違和感、声のかすれなどがあります。

治療方法は、病気の進み具合により決まり、手術、化学療法、放射線療法が治療の3本柱です。早期の食道がんは内視鏡治療で根治する可能性もあります。

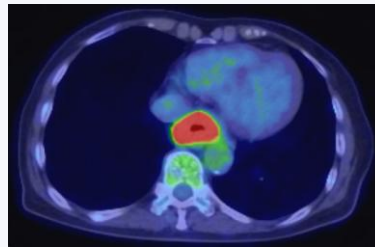
食道がんの検査画像



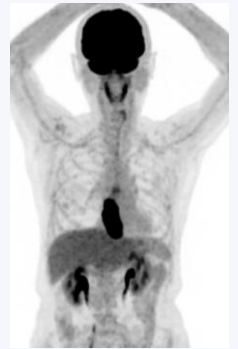
上部消化管内視鏡検査



CT検査



PET-CT検査



02. 広島市民病院で治療するメリット

速やかに十分な治療が提供できる診療体制

診療に携わる診療科（外科、内科、放射線治療科など）と管理栄養士、リハビリテーション技師などで多職種連携を行う体制が整っています。

早期から進行期の全ての段階において、適切な治療を速やかに受けることが可能です。

豊富な診療経験や最先端の治療の提供

食道がんの治療数は豊富であり、患者さんの身体への負担を軽減する低侵襲手術、最新の化学療法や放射線治療を積極的に行っています。

整備された管理体制

食道がん手術は手術の難易度が高いことに加え、術中の麻酔管理だけでなく手術後の全身管理も非常に重要です。

当院は26名の麻酔集中治療科医（日本麻酔科学会専門医13名、日本集中治療学会専門医10名）が在籍しており、麻酔から集中治療室管理まで責任管理できる施設です。

03. 治療について

Q. 手術は痛い？ 何時間くらいかかるの？

低侵襲手術は5-10mm程度の小さい創を数カ所つけて行います。従来の開胸手術、開腹手術と比べて痛みが少なかったり術後の回復が早いと言われています。麻酔法や鎮痛剤も進歩しており、手術時の苦痛は大幅に軽減されています。一度に頸部、胸部、腹部の操作を行うため、手術時間は約10時間前後です。なお、当院では約90%の手術を低侵襲手術（胸腔鏡、ロボット、縦隔鏡）で行っています。低侵襲手術の中でも最先端のロボット手術は手術操作がより細かくより正確に行えるというメリットがあります。

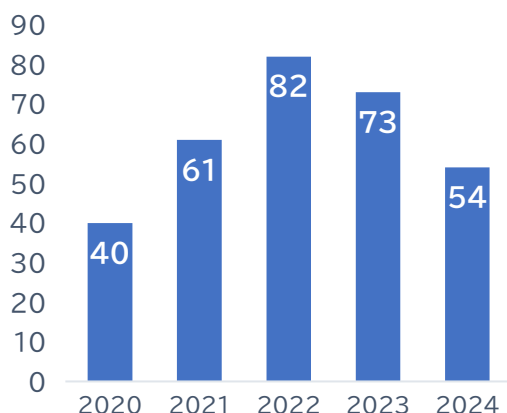
Q. 年間何件の手術をしているの？

広島市民病院では、2020年以降、年間約60～70件の手術を行っています。

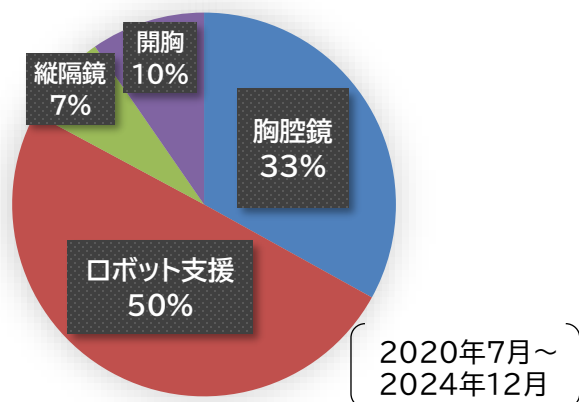
Q. 入院期間はどのくらい？

食道がん根治術を行った場合、自宅退院までの入院期間は約3週間程度となります。

当院の食道がん手術症例数



胸部食道がんに対する手術方法



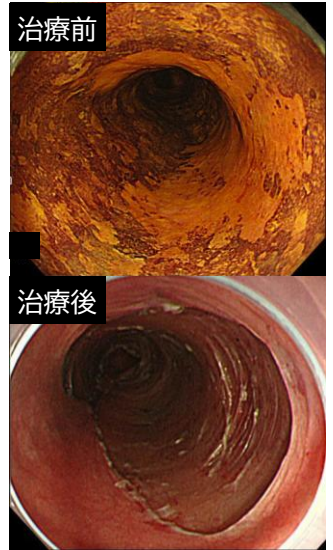
ロボット手術風景



Q. 内視鏡治療で食道がんは治るの？治療後は経過は？

早期の食道がんであれば、内視鏡治療で治癒できる可能性があります。内視鏡治療は、身体の外には傷を付けないので、痛みそれほどありません(多少痛みがでる場合も、痛み止めで対応が可能です)。順調にいけば術後2日目から食事を再開し、術後4日目に退院が可能となります。広島市民病院では、食道がんに対する内視鏡治療を年間60～80件程度行っています。

内視鏡治療(内視鏡的 粘膜下層剥離術: ESD)



Q. 放射線治療の入院期間は？ 外来でも可能？

基本的には外来通院での治療が可能なが多いです。

Q. 放射線治療は痛い？

放射線治療自体に痛みは伴いませんが、副作用として食道粘膜傷害などが生じると痛みがあります。適宜痛み止めなどで対応しています。

Q. 放射線治療の入院期間は？ 外来でも可能？

基本的には外来通院での治療が可能なが多いです。
家が遠方で通院が困難な場合は、入院での治療も行っています。
一般的に化学療法と組み合わせることが多く、最初は化学療法のため2週間程度入院し、その後、外来通院にて放射線治療を受けられる方が多いです。

Q. 化学療法はしんどいと聞きますが本当？

全身倦怠感や消化器症状(口内炎、食欲不振、吐き気、下痢、便秘など)、骨髄抑制(白血球減少、貧血、血小板減少)といった副作用を認めることが多いです。
早めに副作用の出現を察知し、適宜対応することで、患者さんのしんどさを最小限に留めることに努めています。

Q. 化学療法の入院期間は？ 外来でも可能？

多くの化学療法は入院で行い、大体2週間程度の入院期間を設けています。
また一部の化学療法は外来で行う場合もあります。

Q. 治療にはどのくらいお金がかかるの？

治療方法や選択する薬剤などによって、費用は大きく変わります。
詳細につきましては、当院のがん相談支援センターにお問い合わせください。